



① 足守プラザ



③ 乗典寺



④ 藤田千年治郎 中庭



⑤ 足守歴史庭園



足守町並み保存地区MAP



⑥ 緒方公園 洪庵像



⑦ 近水公園 吟風亭



⑧ 杉原邸 長屋門



⑨ 洪庵茶屋

渡った先、家々の間を歩くと緑に囲まれた小公園がある。緒方公園・緒方洪庵生誕の地である。「緒方洪庵先生碑」と産湯を使った井戸、そして生誕180周年記念のブロンズ像が建っている。

(MAP⑥)

再び葵橋を渡り、堤の上の道を北へ。徒歩数分で近水園(おみずえん)に至る。池を囲んだ和風庭園。木下家が造った大名庭園であるが、気取りはない。上等な素材で

作られたカジアルウエア、といった雰囲気だ。庭園には萱葺屋根、数寄屋造りの吟風閣や、木下家ゆかりの文書・道具類を保存・展示している岡山市立資料館・足守文庫などがある。

(MAP⑦)

小さな水路沿いの道、ここにはホタルが舞い、シジミも生息しているという。水が良いのだ。古代吉備文化は足守一帯が発祥の地と見られている。良い水は古代人にとって住居を定める重要な条件だったのである。

道の右側が歌人木下利玄の生家。利玄は藩主木下家一門、明治19年(1886)、ここで生まれた。利玄生家は老朽化が進み、池田さんたちは修復・保存のため募金活動を始めた。隣が陣屋跡である。(MAP⑧)

足守小学校の角を曲がる。小学校の東端に白壁の建物が見える。以前はその正門、今は倉庫として使われている。元々、藩主一門、木下家の長屋門であった。(MAP⑨)

道を挟んだ大きな屋敷は足守藩国家老杉原邸・旧足守藩侍屋敷遺構。江戸中期の建築と推定され、武家屋敷の構成をほぼ完全な姿で残す極めて貴重な史跡である。(MAP⑩)

岡山県指定保存地区

陣屋町足守の町並みを歩く

柳沢 道生



保存地区家屋の虫籠窓

木下家の陣屋町足守

陣屋とは、城を持たない大名や、幕府代官などの政庁兼住居をいう。足守は足守藩二万五千石の藩主。木下家の陣屋が置かれた町である。足守藩は太閤秀吉の正室ねねの兄。木下家定が慶長6年(1601)、姫路より移封されたことに始まる。町並みは寛永14年(1637)に四代藩主となった木下利当(としまさ)が本格整備に着手、20数年かけ、子の五代藩主木下利貞(としさだ)の代にほぼ出来上がった。

現在、足守地区の約二百戸のうち約百戸という数多くの家屋が江戸時代以降の伝統的な姿をとどめている。平成2年(1990)に、岡山県の『町並み保存地区』の指定を受け、整備事業が進められてきた。

保存地区を歩く

吉備線足守駅で下車、駅前の無人のタクシー車庫から電話で車を呼ぶ。足守川沿いの道を7〜8分走ると足守の町並みに入る。足守プラザ前で下車。足守プラザは観光案内や陶芸と木工芸の工房、レストラン花水木などのある観光と体験教室の総合施設である。(MAP①)

足守プラザは町並み保存地区のメインストリート、足守歴史ふれあい通りの南端、周囲には漆喰壁、なまこ壁の民家が連なる。足守プラザの向いには郵便局や駐在所としても使われた元商家を改装した備中足守まちなみ館もある。(MAP②)

駐車場に停まった車から女性が降りてきた。お願いしていたボランティアアガイドの池田さん。息子さんが私

の隣にお住まいとのこと、話がはずむ。では、町並み歩きスタート。

足守プラザから徒歩1分ほど、道の左のお寺さん乗典寺は足守の産んだ医学者・蘭学者緒方洪庵一族の菩提寺。生誕の地もこれから見学する、先ずは墓参り。(MAP③)

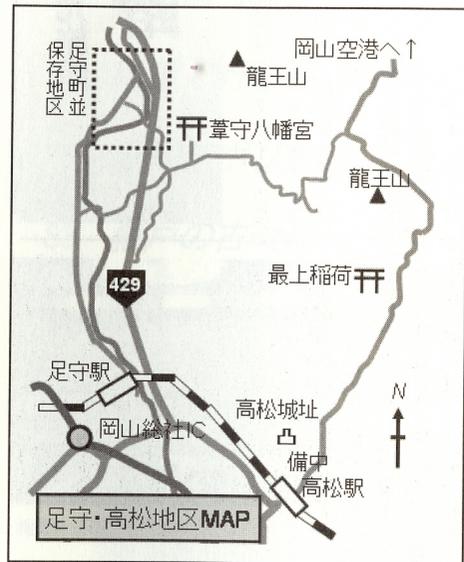
通りの両側に並ぶ伝統的建築を眺めつつ、数分歩けば右側に大きな商家がある。旧足守藩御用商家藤田千年治(せんねんじ)邸。醤油醸造を営んでいた。広い邸内には醸造器具や帳簿類が展示され、整備された中庭が美しい。(MAP④)

通りの斜め向い、工事中の町屋がある。実はこれが問題だった。その訳は後述。通り両側の町家二階の小窓、虫籠窓(むしこまど)と呼ばれ江戸時代、町人は二階に居住できなかった証。家々で個性があり見て楽しい。でも、この通り割りに頻りに車が通る。ぼーっと見ていると危ない。数分歩けば右側に和風の小公園。堀には足守ゆかりの人々のパネル。小休止にはびつたりだ。足守歴史庭園である。(MAP⑤)

足守川を渡る。葵橋である。のびやかな風景。山と川の調和がよい。



葦守八幡宮 重文の石造鳥居



DATA

足守プラザ 岡山市足守 979  
 TEL 086-295-0001  
 入館無料 開館時間 9:00~16:30  
 定休日 月曜(祝日の場合は翌日)  
 交通: JR足守駅→中鉄バス大井方面行き  
 で7分、足守プラザ前バス下車、徒歩すぐ

近水観光振興会ボランティアガイド  
 TEL 086-295-2500 (備中足守まちなみ館)

古のルートで備中高松へ  
 足守プラザ駐車場に戻り、池田さんの車で備中高松に送っていただく。その途中、葦守(あしもり)八幡宮に寄ってほしいとお願います。  
 「では、山越えの道を通って行きましようね」と池田さん。  
 葦守八幡宮、吉備国の発祥神話の舞台に比定される社だ。日本書紀に、応神天皇の妃、兄媛(えひめ)はこの地の出身で、里帰りした妃に会いに、天皇は淡路に行くと言って旅に出て、葉田の葦守宮まで足を伸ばす。ここに、天皇は兄媛の兄、御友別(みともわけ)の五人の子弟に、

吉備国各地の統治を委ねる。古代吉備国の名門、上道臣氏、下道臣氏などの始祖説話が記されている。  
 また、参道入口の石造の鳥居は康安元年(1361)と願主「発注者」神主賀陽重人と制作者「大工沙弥妙阿」などの刻銘がある。現存する最古の部類に属する石造鳥居、国の重文である。安芸宮島の鳥居と同様、柱の基部に稚児柱を伴う、両部鳥居という様式で石造のものとしては珍しい。山越えの道、応神天皇が葦守に行かれたなら、この道を通っただろう。

今の平野部は海(吉備の穴海)が低湿地だったと推測されているのだ。また、備中高松城を包囲した秀吉軍の加藤清正隊はこの経路で足守川取水源確保に向かったの。  
 道中、一本早く曲がってしまったために、最上稲荷奥宮に出た。「ここにも顔を出しておけ」という啓示か。俄かに大粒の雨が落ちてくる。  
 「高松城で水攻めに合うとは洒落になりませんなあ」などと軽口を叩いている間に、車は高松城址公園に着いた。もう晴れていた。

町並みを護るといふこと

広い駐車場の前に出る。「ここでもう一休み。のれんをくぐり店に入る。洪庵茶屋、アイスコヒーで喉を潤し、コシのある冷しウドンで小腹に折合いをつける。(MAP⑩)」

テーブルには池田さんのガイド仲間が。正式名称「近水園観光振興会ボランティアガイド」。メンバーは全て女性で10名ほど、発足は7〜8年前、皆さんベテランだ。

話題はまず、藤田千年治郎、斜め向いの町屋の工事について。

「いきなり解体の話が新聞に出て、皆びつくりしているんですよ……」という。その記事をご紹介しよう。

▼山陽新聞 2006年8月25日

●改修断念 25日から解体

旧商家しようゆ蔵(足守) 寄付申し出も「活用法ない」と市断る 25日から取り壊される町並み保存地区内のしようゆ蔵Ⅱ足守

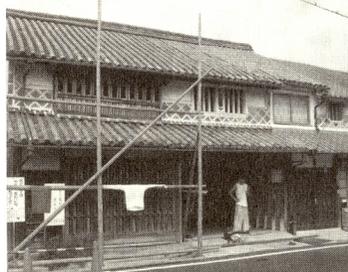
明治初期に建てられ、岡山市足守の県指定町並み保存地区内にある旧商家のしようゆ蔵が25日から解体される。傷みが激しいためだが、所

有者から寄付の申し出を受けた市は「活用の見込みが立たない」などとして、改修を断念していた。

蔵は、木造瓦(かわら)ぶきで、漆喰(しっくい)の壁や「虫籠(むしこ)窓」と呼ばれる格子窓が目を引く。同時代にしようゆ蔵造で栄えた藤田家が造ったしようゆやみやそを置き、小売りや配達に出掛ける大八車がせわしく行き来したという。

建物は戦後、棟割りされ、しようゆ蔵の部分敷地約260平方メートル(を)を除き、今も民家として利用されている。取り壊される蔵は、長年の風雨でかわらや壁がはげ落ちるなど傷みが激しくなっていた。

問題の工事現場(MAP●印)



行政の論理はあるのだろうか、地元への相談も無く、結論が解体というのは乱暴な話だ。文化財は一度破壊したら取り返しがつかない。  
 陣屋町には城下町のような規



ガイドの池田さん 足守歴史庭園にて

模はないかわり、武家と町人が同じご町内といった親しみがある。江戸時代から培われてきたその良さが、平成の御世に「広域行政」の名のもとに失われてしまうのだろうか。また、観光と交通規制、特にホテル祭りなどイベント開催時について、あるいは公共交通のこと、何しろ午前中はバスがない、などなど。故郷の良き「光」を伝えることが観光の発信だとすれば、課題も悩みも多い。

歴代、その時代の課題や悩みに立ち向かって、この町並みは護られてきたのだろう。頑張れ、足守町のガイドの皆さん。町の皆さん。

## 総社市 政府登録国際観光旅館

# ニューきび路

滞在型の旅が増えている。それに伴い旅行者のニーズも多様化している。

「吉備路をゆっくり楽しみたい。そして、倉敷や高梁なども回りたい。足の便が良いところは…」  
「家族で滞在したいので、リーズナブルな料金のお宿があれば有難い…」  
総社市は吉備路観光の中心。



ニューきび路は総社駅から至近距離



展望露天風呂「温羅の湯」

総社駅前にはレンタサイクル屋さんがある。多くの史跡の点にする吉備路は、自転車が良く似合う観光地の一つだ。

「ニューきび路」は総社駅から徒歩2分という、交通至便なロケーション。1泊2食10500円からという料金は家族や小グループの滞在にも最適だ。行動型・滞在型観光旅行の拠点と



ロビーを彩る水墨画

して、活用したい宿である。

倉敷まで2駅11分、備中高梁まで4駅22分、岡山まで5駅26分、総社は岡山西部の観光地へのハブ（基軸）という位置にあるのだ。総社はまた井原鉄道の起点でもあり、旧山陽道の宿場町の町並みと本陣・脇本陣の残る矢掛（やかげ）まで5駅25分で行くことができる。

「昭和54年（1979）に政府登録国際観光旅館としてスタートしました。現在、お客様の8割が観光、2割がビジネス他という割合です。関西地区や県内のお客様が殆どで、中部以東のお客様はまだ少ないようです。

デステイネーションキャンペーンで岡山県全体とともに、総社市の知名度もアップしたら嬉しいですね。特に首都圏のお客様の増加に期待しています」と語る支配人の西野幸二さん。

旅の疲れは名代大岩風呂「吉備の湯」、御影石風呂「黒媛の湯」などの大浴場はもとより、屋上の展望露天風呂「温羅の湯」からの眺望とともに癒せる。雪舟生誕の地・総社にふさわしく水墨画の飾られたロビーや坪庭など実用一点張りではない情緒もある、そんなお宿である。

（柳沢 道生 記）

### DATA

総社駅前2丁目12-12

TEL 0866-93-5454

FAX 0866-92-3689

交通: JR 総社駅から徒歩約2分

料金: 10,500円～

URL <http://www.2t.biglobe.ne.jp/~kibiji/>